

方々で、若者就労の訓練を受けたジョブトレーナーと呼ばれる人たち。現在フルで動けるトレーナーが5名いる。自らの経験や知恵を織り交ぜながら、若者たちに挨拶の仕方から仕事の方法、流れなど一つ一つ具体的に丁寧に教えていく。「会社が新人社員を育てるように、若者たちを育てていきます」とトレーナーの森岡司さん。

同NPO法人理事長であり、臨床心理士である石川さんは、「経済状況が悪く若者には苦しい環境のなかで、企業が求めるコミュニケーション力や社会性、見て学ぶといったことは発達障害者にとっては最も苦手なこと。こんなことも知らないのかと言われ首を切られるといった人もいます。ですから必要最低限のことは経験を積む必要があり、準備できることは準備して臨む」「自信をなくしている若者が多く、ここは自信を取り戻す経験を提供する場所なんです」と話す。自信を取り戻すと見違えるように積極的になるそうだ。

ジョブトレーニングは9時30分から16時まで行われ、数名の若者が週1回トレーニングを受けている。冒頭のタカシ君もその一人だ。石川さんは「居心地の良いだけの場所ではダメで、ここは居場所ではなく通過点にしたい。きちんと指導してくれればきちんと仕事をする良い若者たちなんですよ」と目を細める。人間関係の

ストレスの対処法も身に付けて送り出すので、えほんの森はいろんなタイプの人が出て良いそうだ。今後、図書館の他に、名刺やホームページの作成を仕事として加えていく。発達障害のお子さんを持つ親や支援者向けの連続講座を9月まで開催している。

二丁の就労支援

ぐんま若者サポートステーション

働きたくても働けない状態の若者の職業的自立を支援するのが、ぐんま若者サポートステーション。2007年、NPO法人キャリア倶楽部(太田和雄理事長)が厚生労働省から委託を受け運営している。「ハローワークやジョブカフェと違うのは、二丁の状態の若者が社会とのつながりができなくなるために、彼ら一人ひとりの状況を把握して包括的、継続的に支援しているところ」と太田理事長。前橋市千代田町の前橋テルサにある同ステーションには、連日若者が訪れては相談やセミナーを受けている。キャリアアカウンセラや臨床心理士などの専門家による相談のほかストレスマネジメント講座、社会人のマナー講座、仕事につくためのノウハウ、適性検査や職場見学、仕事体験、応募書類作成や面接対策などたくさん就労準備のためのプログラムが用意されており、若者は定期的にアドバイスを受けながらプログラムに参

加し社会的自立を目指す。また、家族のためのセミナーも開いている。登録者は、30歳前後のいわゆる団塊ジュニアで、就職超氷河期と言われた世代が多いという。これまで相談者の約3割が就職し卒業していった。

若者を支援するには他の機関との連携が重要で、行政や教育機関、就労や職業体験の受け入れの企業やNPO法人、保健福祉機関など様々なネットワークが組まれている。その中で、昨年11月に、県とNPO法人プロサポートとの3者協働で「引きこもり卒業者の社会参加を支援する職業訓練プログラム」が実施された。これは大沢知事のマニフェストに掲げられていたもの。このプログラムはパソコンと会計の職業訓練で、ぐんま若者サポートステーションで行う合宿就労支援セミナーに参加するなど段階を追って訓練を受け入れる素地をつくってから実践。その甲斐あって簿記の3級合格者やPCのMOS合格者が7割に達した。学校へ行って学ぶ楽しさを初めて知ったと大変好評だった。



職業訓練。講師はNPO法人プロサポート

も有効でした」と語る。このプログラムは今年度も予定されている。

サロンも体験の場を提供

NPO・ボランティアサロンぐんまも微力ながら協力させてもらっている。毎年1月から3月まで実施するミニコンサートで、体験の場として若者を受け入れているのだ。他人との関わりの中で、椅子運びやチャシ配り、案内、庁内アナウンス、司会等を体験してもらい、他のボランティアさんたちといっしょに昼食を食べながら交流を図る。経験豊富な常連のボランティアさんたちは彼らを認めて褒める。最初は戸惑って消極的だった若者が、回を重ねていくうちに積極的になっていくのが目に見えてわかる。

どうしていいか分からないときに、まわりの大人に聞いてみる。そうすればまわりの大人が手をさしのべてくれるという体験、そしてまわりの大人が自分を認めてくれるという体験をすることで、人や社会への信頼が生まれ、社会人としての意識が芽生えてくる。

臆病になっっている彼らを地域のみならず、優しい気持ちを持って応援していきたいものだ。若者たちはこれからの社会を支えていく大切な宝なのだから。